

# ひ やけ い せき 日焼遺跡

たか やま し かみ ぎり ちょう  
高山市上切町



古代の礎石建物

日焼遺跡は、上切寺尾古墳群と重複する遺跡で、縄文時代早期の煙道付炉穴、縄文時代中期の竪穴建物、古代の竪穴建物、掘立柱建物、礎石建物などを確認しました。このうち、仏堂と考えられる古代の礎石建物では、鏡が埋納されており、螺髪や多口瓶、鉄鉢形土器など遺構の性格を示す資料が出土しました。



八稜鏡

八稜鏡は、古代の礎石建物基壇内の土坑から見つかった鏡で、表面を上にしてやや斜めに向けた状態で出土しました。鏡の表面には和紙と考えられる繊維が付着しており、和紙に包まれて埋納されたと考えられます。



ロクロ土師器

基壇やその周辺からは、古代のロクロ土師器が出土しました。内面に煤や灯芯が認められ、灯明皿として利用されたものや、漆が付着したものなどがあります。

